

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	キャリアデザイン 1
科目基礎情報					
科目番号	23213		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	情報機械システム工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	学生のためのキャリア形成と就職成功へのステップ (実教出版)				
担当教員	西山 延昌				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善のための向上心を養成し、企業にとってなくてはならない人へ成長するための人間性を養成することが必要であると理解する。</li> <li>・社会において、揺るぎのない自信を持つための日々の努力に気づき、実践することを理解する。</li> <li>・社会人として、他人を思いやる心と感性を持ち、社会に対して有益な価値を提供することにより、社会における存在価値があることを理解する。</li> </ul>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の性格・長所・短所を理解し、友人へ上手に説明ができる。	自分の性格・長所・短所を理解できる。	自分の性格・長所・短所を理解できない。		
評価項目2	就職に向けてのスキルアップビジョンを作り、実践方法を友人へ上手に説明できる。	就職に向けてのスキルアップビジョンを作ることができる。	就職に向けてのスキルアップビジョンの作成や実践方法を作ることができない。		
評価項目3	企業の業種や職種について、友人へ上手に説明できる。	企業の業種や職種を列記できる。	企業の業種や職種を理解できない。		
評価項目4	社会人としての一般常識や知識・知恵を身に着け、友人へアドバイスができる。	社会人としての一般常識や知識・知恵は何かを理解できる。	社会人としての一般常識や知識・知恵を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	就職とともに社会人の仲間入りをする。社会人の一人として、社会へ貢献するために何ができるかを考える上で、自分を知ることは重要である。自分を知るために、自己を見つめなおすとともに、他人の意見を真摯に受け止め、客観的に自分を知ることも必要である。企業とは何か、社会とは何かを理解し、各自の目標へ向かって努力・実践できる技術者を養成するための授業を行う。				
授業の進め方・方法	講義・グループミーティング・プレゼンテーションを実施しながら授業を進める。プレゼンテーションでは、対面プレゼンテーションとリモートプレゼンテーションを経験してもらう。				
注意点	授業・グループミーティングには、積極的に参加すること。プレゼンテーションは、他人にわかるように説明することが使命であり、慣れが必要である。恥ずかしがらずに、自信をもって積極的に発表すること。課題・提出物は、期限を守って必ず提出すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	キャリアデザイン1について 一般常識試験とSPI試験について①	授業の目的を理解する。 一般常識試験とSPI試験を理解し、準備ができる。	
		2週	キャリア時代とキャリア形成	キャリア形成のための考え方ができる。	
		3週	キャリア形成ステップⅠ	意識の基盤を分析し、確認できる。	
		4週	キャリア形成ステップⅡ①	能力の基盤を分析し、確認できる。	
		5週	キャリア形成ステップⅡ② 自己分析とグループ内での分析	仲間の意見を聞き、自分の能力を確認できる。	
		6週	分析結果をグループ単位でリモート発表	リモートプレゼンテーションに慣れることができる。 仲間の意見を聞き、自分の能力を確認できる。	
		7週	キャリア形成ステップⅢ①	実績の基盤/体験を分析し、確認できる。	
		8週	キャリア形成ステップⅢ②	実績の基盤/専門知識・技術を分析し、確認できる。	
	2ndQ	9週	自己分析(長所・短所)①	自分の強み弱みを確認できる。	
		10週	自己分析(長所・短所)②	自分の強み弱みを確認できる。	
		11週	自分について、対面で発表①	自分のプレゼンテーション力の足りない点を確認できる。	
		12週	自分について、対面で発表②	自分のプレゼンテーション力の足りない点を確認できる。	
		13週	自分について、対面で発表③	自分のプレゼンテーション力の足りない点を確認できる。	
		14週	就職とは 自己分析(頑張ったこと)	自分の強みを意識し、特徴を確認できる。	
		15週	一般常識試験とSPI試験について②	一般常識試験とSPI試験を理解し、準備ができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	キャリア形成ステップⅣ	将来の夢や希望や目標を自己認知することができる。	
		2週	アйдマ理論 学生生活の振り返り①	学生生活で身についたことを整理できる。	
		3週	アйдマ理論 学生生活の振り返り②	学生生活で身についたことを整理できる。	

4thQ	4週	業界・会社・仕事とは 業界・会社・仕事の調査①	業界・会社・仕事とは何かを理解できる。 興味がある企業・会社・仕事を探す方法を知ることができる。
	5週	業界・会社・仕事の調査②	興味がある企業・会社・仕事を探す方法を知ることができる。
	6週	業界・会社・仕事の調査③	興味がある企業・会社・仕事を探す方法を知ることができる。
	7週	志望の企業・希望の仕事①	自分に合いそうな職業を考えることができる。
	8週	志望の企業・希望の仕事②	自分に合いそうな職業を考えることができる。
	9週	業界調査①	企業紹介を通じて業界情報を知り、自分の希望と比較することができる。
	10週	業界調査②	先輩の足跡を通して業界・企業を知り、自分の希望と比較することができる。
	11週	自己分析を基に、自分に合いそうな職業を発表①	将来の目標を明確に示すことができる。 プレゼンテーション力を身に付けることができる。
	12週	自己分析を基に、自分に合いそうな職業を発表②	将来の目標を明確に示すことができる。 プレゼンテーション力を身に付けることができる。
	13週	自己分析を基に、自分に合いそうな職業を発表③	将来の目標を明確に示すことができる。 プレゼンテーション力を身に付けることができる。
	14週	自己分析を基に、自分に合いそうな職業を発表④	将来の目標を明確に示すことができる。 プレゼンテーション力を身に付けることができる。
	15週	進路希望のまとめ①	自分の進路を明らかにし、4年生で具体的な活動ができるように準備することができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3		
	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3				
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。				2		
適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2					
リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	2					
法令やルールを遵守した行動をとれる。	3					
他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	3					
技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3					
自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3					
その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3					
キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3					

			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

### 評価割合

	試験	小テスト	相互評価	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	0	20	20	60	100
基礎的能力	0	20	10	30	60
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	30	40